

第15回学術集会に参加して

高知女子大学看護学部 池田 貴子

全国的には猛暑が続いた今年の6月、さわやかな季節の北海道で、第15回学術集会が開催されました。早めの夏バテでぐったりしていた私でしたが、札幌のすがすがしい空気と美しい花々、魅力的な海の幸が心身ともに私を満たしてくれて！最高の避暑を過ごすことができました。

第15回学術集会は、北海道立道民活動センターかでの2・7で開催されました。この2・7の意味は通りの名「北2条西7」であることに帰る直前に気がついたのですが、皆さまはご存知でしたでしょうか？かでの2・7は大通り公園や植物園の近くにあり、観光にも最適な場所でした。そしてこの会場で「変容する精神保健問題への看護職のチャレンジ～医療・司法・看護の重なるなかで～」をメインテーマに学術学会は開催され、このテーマを受け、基調講演やシンポジウムが行われました。

基調講演では「ボーダレス社会での看護の行方」をテーマに講師の粕田先生より今現在、精神看護のおかれている状況や精神看護のアイデンティティーについてのお話がありました。精神看護は特に社会・時代背景に大きく影響を受け、また法律にも近い存在であり、看護を必要とする患者さんやご家族、地域に対して関わる時に、その個別性に合わせ

た介入の難しさに常に直面化されるというハードな環境にあります。臨床で勤務していた頃はその介入の困難さと忙しさであまり深く社会背景など考える機会はなかった（避けていた？）のですが、今回の学会は新米の助手である私にとって、広い視野で臨床を振り返る絶好の機会となりました。

ワークショップでは「虐待関連問題と精神看護の役割」や「地域における自殺予防の取り組み」などがあり、これも時代背景や施策を反映された内容で新しく加えられ、精神看護の幅の広さを伺えました。

シンポジウムでは「うつ時代～社会の読み解きと看護実践の手がかり～」について、シンポジストの高岡先生、山城先生、宇佐美先生、横尾先生のお話があり、熱い議論が交わされていました。

そして私は学会発表をさせていただきました。会場からは貴重なご意見・ご感想をたくさんいただくことができ、また不慣れな私を、座長をはじめ実行委員の皆さまにサポート対応していただき感謝しております。

最後に第15回学術集会を支えてくださった企画・実行委員の皆さま、細やかな配慮や対応ありがとうございました。来年も楽しみにしています。

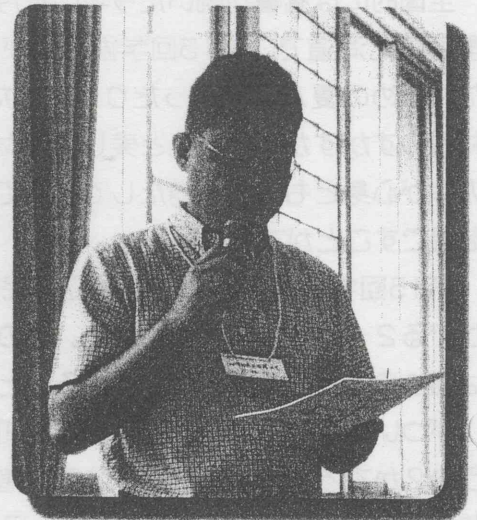
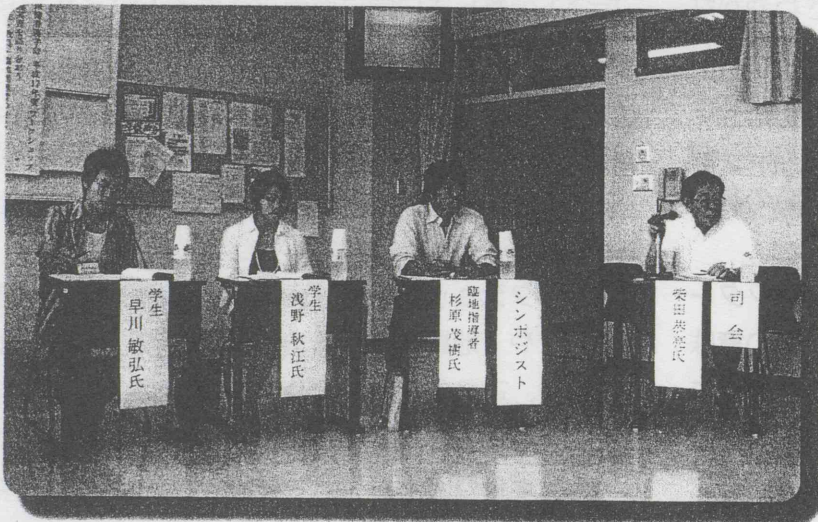
平成17年度ワークショップ

「精神看護学実習を語り合おうー学生・教員・臨地指導者の交流ー」

2005年8月7日 愛知県立看護大学にて開催

前年度のワークショップで、「主役である学生」を交えて語り合いたいという希望をきっかけに、今回は3者合流での会を企画しました。8月という猛暑の中ではありませんでしたが、多くの方々にご参加いただきました。実行委員長の愛知県立看護大学の岩瀬信夫教授が総合司会、柴田恭亮理事がシンポジウム司会を行いました。学生は、どんな実習グループに所属するのかなど、人間関係について強い不安と関心があるようでした。臨地指導者や教員は実習内容を重んじていて、そうした学生の思いには気づけなかったという感想もありました。臨地指導と学校教育方針とのズレを感じたという教員の意見もありましたが、全体的には学生対臨地指導者及び教員という構造の中で進んだ会となりました。以下に、実行委員、シンポジストの感想を掲載させていただきます。

実行委員：岩瀬信夫、山田浩雅、菊池美智子、佐竹裕美
担当理事：榊 恵子、國生拓子、柴田恭亮



実行委員 愛知県立看護大学 菊池 美智子



8月7日(日)、愛知県立看護大学でワークショップを開催いたしました。実習シリーズも第3弾ということで、今回は学生を交えてそれぞれの立場から実習について熱く語り合おうという企画でした。当日は、お盆前の日曜にも関わらず、緑は豊かですが駅からは遠い会場まで60名以上のご参加を頂きました。

午前中は、専門学校で実習を体験した愛知県立看護大学3年次編入生の浅野秋江さんと早川敏弘さん、同大学4年生の長野由佳さんと余田奈緒子さん、臨地指導者として県立城山病院の杉原茂樹氏、教員の立場から県立宝陵高校の山本浩二先生と岐阜県立看護大学の片岡三佳先生、以上7名の豪華シンポジストを迎え実習の本音を語り合いました。学生をどう指導するか悩む指導者、患者や指導者との関係に悩みながら記録に追われ不安な気持ちで実習に望む

学生、臨地指導者との関係作りを課題に思う教員、それぞれの思いが語られて、参加者からは「いろいろな立場からの意見が聞けてよかった」「3者のズレはよくわかったが、討論の時間が短く今後どうするかまで話が発展しなかったのが残念」といった感想がありました。

午後は、4グループに分かれて懇談を行いました。指導側からは「学生の生の声が聞けてよかった」、学生からは「意見を言うのに緊張した」「意見を聞いてもらえてよかった」という感想が聞かれました。指導を受ける立場の学生が実習について本音を言うことの難しさ、相手の思いを聴いてわかり合うことの大切さを感じました。

実行委員をさせていただき、参加者の貴重な意見や自分の指導した学生の思いを知る機会が得られ、ご参加いただいた皆さんに心から感謝しています。

＊シンポジストとして

愛知県立看護大学4年 余田 奈緒子

私達学生は実習がうまく進んで当然であると思いがちであるが、それは先生方や臨地指導者さん方の努力の結果であるということはこのワークショップで再認識するとともに、自分たちは実習の時先生方や臨地指導者さんに何を求めているのか、今までの実習を振り返って考え、学生の本音として伝えることで、後輩のために少しは役に立てたかなと思う。

午後のグループワークが終わった後も、臨地指導者さんから本音の質問や「こういう時、学生さんはどのように指導して欲しいかな？」など、学生の立場としての意見を求

められた。実習において先生との関係性は作りやすいと感じたが、臨地指導者さんとの関係性を作ることは難しかったため、臨地指導者さんが学生とのより良い関係性をどのように作っていけばよいのか考えてくれている気持ちがとても嬉しかった。

学生の立場として本音トークをすればするほど、自分たちのわがままに過ぎないのではないかと思ってきたが、最後まで本音トークをしたつもりである。短い時間ではあったが、先生や臨地指導者さんの本音トークも聞け、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

⇒ 重要なお知らせです！ 学会事務局が変更いたします ⇐

昨年の学会事務センターの倒産の件に関しては、学会員の皆様方にご迷惑とご心配をおかけいたしました。ニュースレターでもその経緯や理事会での対応を説明いたしてまいりました。このたび新しく学会事務業務の委託先が決定いたしましたので、お知らせいたします。

学会事務の新委託先について

学会事務センター倒産以後、学会事務を庶務で行っておりましたが、先日の理事会で学会事務を(株)国際文献印刷社に委託することが決定されました。今後、学会事務局は下記へ変更されます。

今後の学会についてのお問い合わせ、入退会の手続き、住所変更、学会誌のバックナンバーの販売につきましては、下記連絡先までご連絡ください。連絡先のたびたびの変更で会員の皆様にはご不便をお掛けいたしますが、宜しく願いたします。

<新連絡先>

日本精神保健看護学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株)国際文献印刷社内

Tel: 03-5389-6254 FAX: 03-3368-2822

E-mail: japmhn-post@bunken.co.jp

学会HP: <http://www.japmhn.jp>

日本精神保健看護学会 第16回学術集会（栃木）のお知らせ

盛会のうちに終了した札幌大会の後を受け、第16回学術集会は永井優子理事を大会長に栃木県で開催いたします。企画委員会を立ち上げて準備を始めているところです。第16回大会は、かつて看護系の大学施設を使っていた当時は振り返り、原点に戻って手作りで「楽しむ」をスローガンにして企画をしようと思います。

第15回大会と同様準備が整い次第、日本精神保健看護学会のホームページ上に、第16回大会の情報、演題発表や参加の登録手続きができるようにいたします。もちろんニュースレターをはじめとして紙面での情報提供や登録受付も継続いたします。栃木県は、初夏の世界遺産「日光」をはじめ豊かな自然や温泉、餃子の食べ比べなど、お楽しみいただけるものもございます。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

メインテーマ：「変貌する地域社会における精神保健看護のゆくえ～病院と地域ケアの重なりとすき間～」

期 日：2006年6月17日（土）・18日（日）

会 場：自治医科大学看護学部（栃木県河内郡南河内町）

学術集会についてのお問い合わせ先（文書またはメールでお願いします）

日本精神保健看護学会第16回学術集会事務局

〒329-0498 栃木県河内郡南河内町大字薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内

E-mail：gakkai@japmhn.jp Fax：0285-58-7512（永井研究室付け）

*** 学術集会ワークショップを募集します ***

第16回大会ではワークショップを2日目6月18日（日）の午後に行う予定です。第15回大会と同様に会員の皆様からワークショップの企画を募ります。これまでの企画の継続はもちろん、同じテーマで語り合いたい方、温めてきた企画をお持ちの方、など、奮ってお申し込みくださいますようお願いいたします。

ワークショップの企画をお申し込みなさる方は、申込用紙をお送りいたしますので、お手数ですが大会事務局までお知らせください。メールで申し込みをなさる場合、wordの書式を折り返し添付いたします。

なお、申し込みが多数の場合は、調整をさせていただくこともありますので、あらかじめご了承ください。

申し込み受付締め切り

2005年11月24日（木）必着

ワークショップ申し込み問い合わせ先（文書またはメールでお願いします）

日本精神保健看護学会第16回学術集会事務局

〒329-0498 栃木県河内郡南河内町大字薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内

E-mail：gakkai@japmhn.jp Fax：0285-58-7512（永井研究室付け）

ニュースレター原稿募集

学会では、学会員が主催している精神看護に関連する活動を支援し、また学会員同士がより広く交流できるよう、ニュースレターへ掲載する原稿を学会員の方々から募集したいと思います。

学会員が主催している精神看護に関連した活動で、ニュースレターで広報してほしい活動について、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・時期、参加方法、連絡先についてお知らせください。また現在の精神医療や看護に関するご意見や、今、直面している現場の問題、あるいは日頃から気になっていることなど、学会員の方々と共に共有したい内容についての記事をお送りください。編集委員会で検討させていただきます。ニュースレターに掲載したいと考えております。お原稿お待ち致しております。

お問い合わせ先 日本精神保健看護学会編集委員会（荻野）

メールアドレス mogino@faculty.chiba-u.jp

FAX 043-226-2431

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing

News
letter

編集後記

▼関東では、続いてきた長雨がやみ雲ひとつない、透けるような青空とすがすがしい風が吹いています。学術集会で訪れた北海道を思い出しました。▼第15回学術集会が終わったと思えば、今号では第16回学術集会のお知らせを載せることができました。第16回学術集会は地域社会における精神保健看護のあり方がテーマです。▼すさまじいスピードで変貌する社会、その中でつい自分を見失いそうになります。ちょっと立ち止まって振り返る時間が、精神看護を考える上でも、自分の人生でも必要なんですね。

編集委員

永井優子 岡田佳詠 荻野雅

第15回 日本精神保健看護学会総会議事録

日 時：平成17年6月5日（日） 12:15～13:15

場 所：北海道立道民活動センター かでる2・7（北海道札幌市）

議 長：瀧川 薫氏

正会員数701名に対し、出席者22名、委任状178通、計200をもって、総会は成立したことが宣言された。

1. 開 会

2. 議長選出

佐久間理事

第15回日本精神保健看護学会総会議長として瀧川薫氏を選出

3. 理事長挨拶

阿保理事

4. 報 告

1) 平成16年度事業報告

(1) 理事会活動報告

阿保理事

平成17年8月から17年6月まで東京女医医科大学、北海道医療大学サテライトキャンパスにて計4回開催し、学術集会の企画、各委員会活動、入会審査、今後の学会活動などについて検討を行った。

(2) 各委員会活動報告

① 学術集会担当

佐久間理事

第15回学術集会・総会の開催および学術集会抄録集の作成を行った。

② 編集委員会

荻野理事

ニュースレター第41号、42号、43号を発行した。また、学会誌第14号を発行した。

③ 教育活動委員会

國生理事

ワークショップ「精神看護学実習指導上の困難－臨地指導者、教員それぞれの言い分」を大阪大学中之島センターで開催した。

④ その他

平成15年より、精神従事者懇談会に参加している。

佐久間理事

日本看護系学会協議会へ加盟することについて報告があった。

阿保理事

(3) 日本学会事務センター破産後の対応について資料をもとに報告された。

阿保理事

(4) 会員の動向

若狹理事

平成17年5月31日現在、学会員数は701名である。

2) 平成16年度収支報告

出口理事

平成16年4月から17年3月までの収支決算報告およ

び別途積立金（学術集会特別基金）会計報告が、配付資料をもとに報告された。

3) 会計監査報告

池田理事

上記収支決算報告に対して、監査の結果、相違ないことが報告された。

以上の報告に対して、質問や意見などなく、承認された。

5. 議 事

1) 第1号議案：平成17年度事業計画（案） 阿保理事

(1) 平成18年6月17日（土）～18日（日）、「自治医科大学、および地域医療情報研修センター」で開催する予定である。

(2) 学会誌第15号を発行する予定である。

(3) ニュースレター44号、45号、46号を発行する予定である。

(4) ワークショップを平成17年8月7日（日）にテーマ「精神看護学実習を語り合おう－学生・教員・臨地指導者の交流－」として愛知県立看護大学で開催予定である。

(5) 第6期役員選出選挙を平成18年2月に行う予定である。

(6) その他

・学会員名簿について冊子にする必要性を含め、次年度に向けて検討していく。

2) 第2号議案：平成17年度収支予算（案） 出口理事
配付資料をもとに説明された。

3) 第3号議案：学会業務委託先候補と会則の一部改正（案） 阿保理事

委託先を株式会社国際文献印刷会社とし、それに伴い会則の一部改正について配付資料をもとに説明された。

以上の議案に対して、質問や意見などなく、承認された。

6. 第16回学術集会大会長挨拶

第16回日本精神保健看護学会学術集会・総会の大会長の永井理事より挨拶があった。

7. 閉 会

佐久間理事

平成16年度 日本精神保健看護学会決算

平成17年3月31日 現在

総収入額	8,057,696
総支出額	6,840,680
残額	1,217,016

〔収入の部〕

費目	予算額	決算額	増減額	備考
平成15年度繰越金	714,974	714,974	0	
年会費	5,400,000	4,529,550	870,450	*9,000円、学会センター384口、医療大119口
賛助会員会費	50,000	50,000	0	1口*50,000円
特別基金からの運用	2,200,000	2,200,000	0	
学会誌	130,000	186,080	-56,080	学会当日売上141,000円、センター・医療大45,080円
事業収入	200,000	377,000	-177,000	ワークショップ参加費
雑収入	100	92	8	銀行利息等
収入計	8,695,074	8,057,696	637,378	

〔支出の部〕

費目	予算額	決算額	増減額	備考
学会誌印刷費	2,300,000	2,324,430	-24,430	学会誌及びニュースレター印刷費
編集委員会費	250,000	76,870	173,130	編集委員会会議費等(前年度不足分27,440円を含む)
教育活動委員会費	50,000	0	50,000	教育活動委員会会議費等
会議費	900,000	814,756	85,244	理事会会議費、交通費等
郵送通信費	15,000	102,640	-87,640	庶務・会計郵送通信費
事務経費	40,000	124,237	-84,237	庶務・会計事務経費
学会センター経費	1,300,000	268,623	1,031,377	学会センター業務費、諸経費
学会センター倒産による損失	0	1,887,087	-1,887,087	
人件費	150,000	156,000	-6,000	庶務・会計人件費
学術集会補助費	600,000	600,000	0	学術集会開催のための補助金
事業経費	200,000	273,342	-73,342	ワークショップ開催費用
予備費	690,074	212,695	477,379	調査料、銀行振込み料等
支出計	6,495,074	6,840,680	-345,606	

平成16年度の決算報告について監査を行い会計帳簿・証書類などを照合調査の結果、上記の通り、相違ないことを認めます。

平成17年 6月 3日 監事 池田明子(印鑑省略)

平成17年 6月 3日 監事 式守晴子(印鑑省略)

平成16年度 日本精神保健看護学会決算報告書

別途積立金(学術集会特別基金)会計報告

〔収入の部〕

元本(第1~11回学術集会繰越金)	3,157,799
第14回学術集会より	1,200,000
郵便局利子	108
小計	4,357,907

平成17年3月31日現在

(平成16年4月1日~17年3月31日)

総収入額	4,357,907
総支出額	2,200,021
残額	2,157,886

〔支出の部〕

学会活動資金	2,200,000
郵便局税金	21
小計	2,200,021

平成16年度決算報告について監査を行い会計帳簿・証書類などを照合調査の結果、上記の通り、相違ないことを認めます。

平成17年6月3日

監事 池田明子(印鑑省略)

平成17年6月3日

監事 式守晴子(印鑑省略)

平成17年度予算案

〔収入の部〕

費目	予算額	備考
平成16年度繰越金	1,217,016	
年会費	5,400,000	600口×9,000
賛助会員会費	50,000	1口*50,000
学会誌	130,000	学会誌売上
事業収入	200,000	ワークショップ参加費
雑収入	100	
収入計	6,997,116	

〔支出の部〕

費目	予算額	備考
学会誌印刷費	2,300,000	学会誌及びニュースレター印刷費(3回/年)
編集委員会費	200,000	編集委員会会議費等
教育活動委員会費	50,000	教育活動委員会会議費等
会議費	900,000	理事会会議費・交通費等
郵送通信費	15,000	庶務・会計事務経費
事務経費	50,000	コピー代等
学会センター経費	1,300,000	学会センター業務費・諸経費
人件費	150,000	庶務・会計人件費
学術集会補助費	600,000	学術集会開催のための補助金
事業経費	200,000	ワークショップ開催費用
関連団体会費	50,000	精神保健従事者団体懇談会
選学費用	400,000	
予備費	782,116	
支出計	6,997,116	

* 関連団体会費の項目を増設した。